

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01461

研究課題名（和文）EU危機の史的起源 ヨーロッパ統合史の再定位

研究課題名（英文）Historical origins of EU crises --- Reexamining European integration history

研究代表者

遠藤 乾（Endo, Ken）

東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授

研究者番号：00281775

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,510,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、欧州統合を歴史的な観点から再定位するため、徹底して一次史料に依拠しつつ総合的な分析を進め、広く地域・国際秩序への含意を汲み取ることにあった。

もとよりEUとNATOの相互関係に敏感であったことから、ウクライナ戦争のような危機のなかでも欧州秩序への見直しをもてた。また、類似プロジェクトと連携し、フランスの統合史研究者 Laurent Warlouzet 教授を招へいするなどして国際シンポジウムを開催し、加えて、コロナ危機が明けたのを受け、欧州現地にて資料収集に努めた。その延長上に、すでに刊行した原典史料・解説集を、危機の2010年代にまで拡張し、通史を抜本的に書き直した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間中、米中対立、コロナ危機、ウクライナ危機といった第一級の変動が生起し、EUも大いに影響を受けたことから、冷戦後の欧州秩序のあり方に対する深刻な見直しが生じた。もちろん計画の再検討を余儀なくされたが、本研究は、EUとNATO、経済統合と安全保障の相互関係に敏感であるなど、これまでの研究蓄積から現状・歴史への視角の形成に応用を効かせることができた。その結果、ウクライナ戦争などの大事件後における汎欧州秩序への見直しをもつことができた。2010年代以降の危機に次ぐ危機の統合史をどう理解すべきか、大きな需要があるなか、それを含めた通史を世に問うところまで来たことは意義深い。

研究成果の概要（英文）： This project was intended to reexamine the history of European integration, by thoroughly replying on the primary materials and by systematically analysing them, thus teasing out the implications for the wider regional/international order.

Already familiar with the EU-NATO systemic interactions in our previous studies, we have finely attuned to the dynamism that shackled the European regional order after the breakout of the Ukraine war. We also collaborated with the overseas projects as we managed to hold a Tokyo workshop with Laurent Warlouzet, an authority in the field, while collecting materials in Europe after the COVID-19 crisis faded.

In the end we have written a revised manuscript of our History of European Integration, extending our analysis up to the 2010s.

研究分野：政治学、国際政治

キーワード：ヨーロッパ 統合史 ウクライナ EU NATO 戦争 冷戦後 地域秩序

1. 研究開始当初の背景

2000～10年代のヨーロッパ統合は、危機にまみれていた。欧州憲法条約の挫折、ユーロ危機、ポピュリズムの台頭、ウクライナ危機、難民危機、ブレグジット(英国のEU離脱)などに直面し、EUは歴史的な動揺と変容の時期にあった。申請当時は、その後、コロナ危機やウクライナ危機が始まるとは知らなかったが、当時すでに、冷戦のなかで制度化されたヨーロッパ統合は、いまや冷戦後に浮上した数々の新しい課題に直面しながら、自らの形を模索していた。そうしたなか、一般あるいは学界においてもEUへの評価は揺れ動き、ともすれば「EU崩壊」や「ドイツ帝国の復活」などといった極端な言説も蔓延っていた。危機に対応するなかでEUが経験的に未知の政体に変態し、ジャーナリズムはおろか、アカデミズムにおいてですら、動くターゲットとしてのEU統合を把握し切れていないのが実情であった。

それに対しては、先入観をできるだけ排除し、みずから現地に分け入って、事実を直視し、アンテナを上げながら、現地の鋭利な報告、分析、研究をサーヴェイしたうえで、現状の正確な把握に努める必要があった。それについては、申請者(遠藤)は定評があり、イギリスの国民投票の3か月後に、長年のEU研究と現地調査に基づいた『欧州複合危機』(中公新書、2016年)を公刊した。それからすでに3年経ち、続発するテロ事件、新たに深まるイギリスの政治・憲政危機、ハンガリーやイタリアなど大陸諸国におけるポピュリズムの浸透、新欧州委員会(EU執政部)の困難な門出、中近東の地政学的な変動、今後迫りくる予算問題、そして未完のユーロ圏危機など、まだまだ問題のそれぞれに沿った形で、綿密に跡づける必要を感じていた。

さらに、そうした作業を、これまで従事してきた歴史研究と接合し、重厚で信頼のあるヨーロッパ統合史研究に高めるといった学術的な作業が必要とされていた。加えて、地域統合・国際秩序への含意を考察するという、日本外交のあり方ともかかわる課題が横たわっていた。

これらが研究開始当初の問題意識であった。

2. 研究の目的

本研究課題「EU危機の史的起源 ヨーロッパ統合史の再定位」は、大きな動乱と変容のなかであり、評価が揺れ動く欧州連合(EU)を、歴史的な観点から跡づけ、体系的な資料整備と総合的な分析を進め、広く地域・国際秩序への含意を汲み取ることを目的としていた。具体的には、徹底して一次史料に根拠を求め、実証的な歴史研究に従事することで、2010年代における危機のヨーロッパ統合を等身大で見つめ直し、もっぱら危機の視点から語る視座を乗り越えた統合史を再構築する。成果としては、すでに2008年、危機の前に提示した原典史料・解説集を、危機の2010年代にまで拡張し、それとともに通史を抜本的に書き直し、視座の提起と史料の分析を盛り込んだ論文集を刊行することを目指した。これは、研究代表者および分担者が長年取り組んできたヨーロッパ統合史研究の成果を踏まえ、それをさらに発展させ、もって地域・国際秩序の在り方を占う試みともなると企図された。

3. 研究の方法

本研究は、3年の期間で、EU危機の史的起源を一次史料に基づいて検討し、新たなヨーロッパ統合史像を提示するとともに、ヨーロッパ統合史の史料アーカイブ構築など研究基盤整備を体系的に進めることを根差した。具体的には、以下の5点を追究した。

(1) 「原典ヨーロッパ統合史電子アーカイブ」の構築：重要資料の選定・翻訳・解説、電子アーカイブの形成、オーラルヒストリーの可視化を通して、国内外の研究者の利用に供する。

(2) 「危機の中のヨーロッパ統合史・研究会」の設立・運営：「ヨーロッパ統合史研究会」を年4回(東京2回、札幌2回)のペースで開催し、資料分析とともに新たな解釈を相互に検討する。その際、若手にも積極的に門戸を開き、次世代統合史研究アジェンダの設定を試みる。

(3) 危機の史的起源の解明と可視化：以上の研究成果をまとめつつ、最終的にEU危機の史的起源を見極め、それに関する問題提起を試みる。

(4) 新たなヨーロッパ統合史像の提示：1.のアーカイブをもとに、2010年代の危機状況を跡付け、さらに統合史解釈を刷新する新たな通史『ヨーロッパ統合史』原典ヨーロッパ統合史』の新版を刊行する。

(5) 国際秩序の変動分析への含意模索：広く世界の地域秩序、国際秩序への含意をくみ取り、それに関する問題提起型のペーパーを発表する。

これらは、体系的に進められた。研究チームは、これまででも多くの共同研究を共にし研究目的も共有してきた7名の中核メンバーで構成される。そのほかに、国内外の研究協力者

を情報や支店を交換し合い進めるよう心掛けた。そのため、討議と情報交換が不可欠である。それゆえ年数回のペースで、視座を摺り合わせ、研究の進捗状況を確認し、ワーキング・ペーパー等の報告を行う研究会合を行う。「ヨーロッパ統合史電子アーカイブ」を構築した(https://lex.juris.hokudai.ac.jp/history_of_european_integration/index.html)。新たなヨーロッパ統合史を執筆した。これは、今秋公刊される。

4．研究成果

本研究の目的は、欧州統合を歴史的な観点から再定位するため、徹底して一次史料に依拠しつつ総合的な分析を進め、広く地域・国際秩序への含意を汲み取ることにあった。

もとより EU と NATO の相互関係に敏感であったことから、ウクライナ戦争のような危機のなかでも欧州秩序への見通しをもてた。また、類似プロジェクトと連携し、フランスの統合史研究者 Laurent Warlouzet 教授を招へいするなどして国際シンポジウムを開催し、加えて、コロナ危機が明けたのを受け、欧州現地にて資料収集に努めた。その延長上に、すでに刊行した原典史料・解説集を、危機の 2010 年代にまで拡張し、通史を抜本的に書き直した。

研究期間中、米中対立、コロナ危機、ウクライナ危機といった第一級の変動が生起し、EU も大いに影響を受けたことから、冷戦後の欧州秩序のあり方に対する深刻な見直しが起きた。もちろん計画の再検討を余儀なくされたが、本研究は、もともと EU と NATO、経済統合と安全保障の相互関係に敏感であり、これまでの研究蓄積から現状・歴史への視角の形成に 응용を効かせることができた。その結果、ウクライナ戦争などの大事件後における汎欧州秩序への見通しをもつことが可能となった。2010 年代以降の危機に次ぐ危機の統合史をどう理解すべきか、大きな需要があるなか、それを含めた通史を世に問うところまで来たことは意義深い。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計51件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 川嶋周一	4. 巻 -
2. 論文標題 「ユーラトムとヨーロッパの「核」」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岩間陽子編 『核共有の現実：NATOの経験と日本』（信人社）	6. 最初と最後の頁 152-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 -
2. 論文標題 「ミドルクラスのための経済安全保障」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佐橋亮・鈴木一人編 『バイデンのアメリカ：その世界観と外交』	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuto Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Europe's Indo-Pacific Tilt: Estonian and Japanese interests	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Centre for Defence and Security	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人・山添博史	4. 巻 73
2. 論文標題 「「20世紀の戦争」に沈むロシア」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 78
2. 論文標題 「ドイツ外交「ポスト冷戦」時代の終焉か」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 、『外交』	6. 最初と最後の頁 118-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 1029
2. 論文標題 「冷戦後の欧州国際秩序の成り立ちを問い直す」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 71-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 -
2. 論文標題 「東西ドイツ統一プロセスとポーランド西部国境問題 冷戦の終焉局面における「歴史の回帰」」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 葛谷彩・小川浩之・春名展生(編)『国際関係の系譜学 外交・思想・理論』晃洋書房	6. 最初と最後の頁 140-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 -
2. 論文標題 「ヨーロッパにおけるファシズムの浸透と競合」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 細谷雄一(編)『世界史としての「大東亜戦争」』PHP新書	6. 最初と最後の頁 189-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 -
2. 論文標題 「現代ドイツの右翼ポピュリズム その歴史と世界観」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山崎望（編）『民主主義に未来はあるのか？』法政大学出版社	6. 最初と最後の頁 167-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 96
2. 論文標題 「German Unification and the Issue of Poland 's Western Border」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『成蹊法学』	6. 最初と最後の頁 135-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上原良子	4. 巻 96
2. 論文標題 「マルセル・ダッサン：ミラージュ戦闘機の生みの親」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アステイオン』	6. 最初と最後の頁 148 - 160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 細谷雄一	4. 巻 72
2. 論文標題 「動揺するリベラル国際秩序」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細谷雄一	4. 巻 4
2. 論文標題 「なぜヨーロッパで戦争が起こったのか」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『安全保障研究』	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細谷雄一	4. 巻 5
2. 論文標題 「ロシア=ウクライナ戦争とイギリスの対応、2014-2023年」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『安全保障研究』	6. 最初と最後の頁 32-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細谷雄一	4. 巻 78
2. 論文標題 「『危機の三〇年』における国際秩序の変容」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 107-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾哲志	4. 巻 -
2. 論文標題 「東西緊張緩和への貢献と「もっとデモクラシーを」 - ブラント政権、1969~1974年」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 板橋拓己・妹尾哲志編著『現代ドイツ政治外交史 - 占領期からメルケル政権期まで』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 100~124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾哲志	4. 巻 -
2. 論文標題 「「継統と集中」と危機管理の時代 - シュミット政権、1974 - 1982年」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 板橋拓己・妹尾哲志編著『現代ドイツ政治外交史 - 占領期からメルケル政権期まで』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 126 - 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾哲志	4. 巻 -
2. 論文標題 「ブラントの東方外交 - 「西側統合」を土台とした東側との緊張緩和」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一編著『ハンドブックヨーロッパ外交史 - ウェストファリアからブレグジットまで』	6. 最初と最後の頁 168 - 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾哲志	4. 巻 -
2. 論文標題 「西独シュミット外交と独米関係 - 人権問題をめぐる西側同盟の協調と対立」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 益田実・齋藤嘉臣・三宅康之編著『デタントから新冷戦へ - グローバル化する世界と揺らく国際秩序』法律文化社	6. 最初と最後の頁 27 - 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤	4. 巻 5-1
2. 論文標題 フランスとウクライナ戦争：マクロン流安全保障政策の論理	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Security Studies 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾	4. 巻 -
2. 論文標題 序章 ポスト複合危機の欧州と日本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『混迷する欧州と国際秩序』(平成29年度-令和元年度)、最終成果報告書、日本国際問題研究所	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾、宮井健志	4. 巻 -
2. 論文標題 終章 日欧は世界でどうふるまうべきか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『混迷する欧州と国際秩序』(平成29年度-令和元年度)、最終成果報告書、日本国際問題研究所	6. 最初と最後の頁 121-127
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ken Endo	4. 巻 -
2. 論文標題 Chap. 14 A Distant Partner: The Japanese perspectives of a post-Brexit European Union	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Changing Perceptions of the EU at Times of Brexit: Global Perspectives	6. 最初と最後の頁 ch. 11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾	4. 巻 -
2. 論文標題 ヨーロッパの対応 コロナ復興基金の誕生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題 「感染症と国際社会」特集	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾	4. 巻 -
2. 論文標題 EU・イギリスから見る米中関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川島真・森聡『UP plus アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 132-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細谷雄一	4. 巻 690
2. 論文標題 リベラルな国際秩序とイギリス外交	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川嶋周一	4. 巻 -
2. 論文標題 「第一章 ヨーロッパとは何か」、「第五章 EUの諸機構」、「第12章 デモクラシーと正統性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 池本大輔、川嶋周一、板橋拓己、佐藤俊輔『EU政治』有斐閣	6. 最初と最後の頁 107-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋 拓己	4. 巻 200
2. 論文標題 ドイツ統一交渉と冷戦後欧州安全保障秩序の端緒	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11375/kokusaiseiji.200_67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takumi Itabashi	4. 巻 31
2. 論文標題 Moeglichkeiten der sicherheitspolitischen Zusammenarbeit zwischen der EU und Japan im Rahmen der Gemeinsamen Sicherheits- und Verteidigungspolitik (GSVP)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Historische Mitteilungen	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 688
2. 論文標題 ベルシャ湾の安全保障とその展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原良子	4. 巻 -
2. 論文標題 「ペリフェリーからの問い フランスにおける地域主義の覚醒とバスク」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 網谷龍介(編)『戦後民主主義の革新: 1970-80年代ヨーロッパにおける政治変容の政治史的検討』(ナカニシヤ出版)	6. 最初と最後の頁 95-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原良子	4. 巻 71
2. 論文標題 「新たな民族移動の胎動か?: 移民・難民問題とヨーロッパ・デモクラシーの動揺」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuichi Hosoya	4. 巻 30
2. 論文標題 "Japan and the Rise of the Global South: Can Japan's Free and Open Indo-Pacific Vision Survive?"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pacific Review	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 -
2. 論文標題 「1970年代の西ドイツにおける保守主義の変容」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 網谷龍介(編)『戦後民主主義の革新: 1970-80年代ヨーロッパにおける政治変容の政治史的検討』(ナカニシヤ出版)	6. 最初と最後の頁 119-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 -
2. 論文標題 「ドイツにとってのロシア・ウクライナ戦争 「時代の転換(Zeitenwende)」をめぐって」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 細谷雄一(編)『ウクライナ戦争とヨーロッパ』(東京大学出版会)	6. 最初と最後の頁 83-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 136
2. 論文標題 「学界展望 国際政治 Alexandra Sakaki, Hanns W. Maull, Kerstin Lukner, Ellis S. Krauss, Thomas U. Berger, Reluctant Warriors: Germany, Japan, and Their U.S. Alliance Dilemma (Washington, D.C.: Brookings Institution Press, 2020, xi + 278 pp.)」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国家学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1100-1103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takumi ITABASHI	4. 巻 168
2. 論文標題 「Germany's China strategy is epoch-making but ambiguous」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Goeconomic Briefing	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 177
2. 論文標題 「ドイツの対中戦略を読むー画期的だが曖昧な文書」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地経学ブリーフィング	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 961
2. 論文標題 「ヨーロッパにおける冷戦終結を問い直す ドイツ統一とNATO拡大問題を中心に」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川嶋周一	4. 巻 -
2. 論文標題 地域統合の進展	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 木畑洋一編『冷戦と脱植民地化I 20世紀後半』(岩波講座 世界歴史 第22巻)	6. 最初と最後の頁 133-158頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾哲志	4. 巻 -
2. 論文標題 多極化のなかの欧州統合と東方政策	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 益田実・齋藤嘉臣編『冷戦史 超大国米ソの出現からソ連崩壊まで』(法律文化社)	6. 最初と最後の頁 223-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾	4. 巻 13
2. 論文標題 「キッシンジャー、死してなお」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ROLES COMMENTARY	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾	4. 巻 715
2. 論文標題 「ウクライナ戦争後の安全保障戦略」特集	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 -
2. 論文標題 安全保障とはなにか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日機輪 JMCジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuto Suzuki	4. 巻 50
2. 論文標題 IN CONVERSATION KAZUTO SUZUKI AND KEN JIMBO WITH SRINJOY CHOWDHURY	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 India International Centre QUARTERLY	6. 最初と最後の頁 94-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 675
2. 論文標題 経済の武器化を進める中国	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuto Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Perspective Japan Embraces Its Strategic Indispensability in Alliance with the United States	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Post-October 7 World International Perspectives on Semiconductors and Geopolitics	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Elvis Martin, Jah Moriba, Nesvold Erika, Suzuki Kazuto	4. 巻 -
2. 論文標題 Shaping the ethical, sustainable and policy-driven future of space exploration	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Nature Reviews Materials	6. 最初と最後の頁 94-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41578-023-00636-z	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 681
2. 論文標題 世界的な選挙イヤーと中国	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木一人	4. 巻 -
2. 論文標題 経済制裁のジレンマ 制裁は武器を使わない戦争なのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 浅田正彦・玉田大編著『ウクライナ戦争をめぐる国際法と国際政治経済』(東信堂)	6. 最初と最後の頁 131-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuto Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese Economic Security as "Derisking"	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Korea Economic Institute of America (KEI) (ed.) Economic Security in the Indo-Pacific: Perspective from the Region (Korean Economic Institute)	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 東西ドイツ統一をめぐる国際政治の再検討
3. 学会等名 ドイツ現代史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 冷戦後の国際秩序を問い直す ヨーロッパ国際政治史研究の視点から
3. 学会等名 第73回日本西洋史学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takumi Itabashi
2. 発表標題 The Age of Cotransformation: Comments on Philipp Ther ' s "Europe since 1989"
3. 学会等名 International Workshop: The New Order on the Old Continent: The History of Neoliberal Europe after 1989 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takumi Itabashi
2. 発表標題 " Zeitenwende " in Germany and Japan? Continuity and change in Germany and Japan ' s foreign policy after the Cold Wa
3. 学会等名 Seminar organized by the Centre for the Study of Global Japan, University of Toronto (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takumi Itabashi
2. 発表標題 " Zeitenwende " in Germany and Japan: Changing Foreign Policy Identities of Two Civilian Powers
3. 学会等名 German Studies Association 47th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 西ドイツにおける戦略的思考の誕生
3. 学会等名 日本国際政治学会2023年度研究大会 欧州国際政治史・欧州研究分科会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 NATOの東方拡大とヨーロッパ
3. 学会等名 日本平和学会2023年秋季研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川嶋周一
2. 発表標題 帝国、ヨーロッパ、国家の終わり：アレクサンドル・コジェーヴのヨーロッパ観の変遷をめぐる、インテレクチュアル・ヒストリー的研究の試み
3. 学会等名 日本国際政治学会2023年度研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「日韓関係の現状と課題 日本の安全保障との関連で」
3. 学会等名 東大＝ソウル大パートナーシップ会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 ' In search of a post-FOIP vision: Towards strategic connectivity, '
3. 学会等名 The free and open Indo-Pacific: Japan's strategic vision goes global, Nissan Institute of Japanese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 'ウクライナ戦争後の欧州 EU-NATO体制のゆくえ 』
3. 学会等名 同友クラブ
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 '今日のウクライナは明日の東アジアか 日本の安全保障を再検討する 』
3. 学会等名 憲法問題特別委員会第10回公開シンポジウム
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 '今日のウクライナは明日の東アジアか 日本の安全保障を再検討する 』
3. 学会等名 国際情報研究所
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「今日のウクライナは明日の東アジアか 日本の安全保障を再検討する」
3. 学会等名 国際館バミール
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「今日のウクライナは明日の東アジアか 日本の安全保障を再検討する」
3. 学会等名 参議院協会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 'The world after the Ukraine war, '
3. 学会等名 ROLES workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 'European international order after the Ukraine war: A historical exploration of its structure'
3. 学会等名 ROLES workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「アフター・ウクライナ～ウクライナ戦争の及ぼす国際秩序と日本への影響～」
3. 学会等名 日本政治学会共通論題
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 'Revisioning the Free and Open Indo-Pacific Strategy: In the context of the Japan-Korea rapprochement, '
3. 学会等名 2023 Global Unification Dialogue (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「持続的な日韓関係に向けた哲学的基礎を求めて 日韓ハーモナイズアップ連合に向けて」
3. 学会等名 TOSEフォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「今日のウクライナは明日の東アジアなのか～台湾有事を中心に～」
3. 学会等名 小清水町職員研修会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「ウクライナ戦争の含意～国際秩序はどうなっていくのか～」
3. 学会等名 台湾日本研究院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 「ウクライナ戦争の含意～国際秩序はどうなっていくのか～」
3. 学会等名 広島日英協会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木一人
2. 発表標題 経済安全保障体制下でのサプライチェーン強靱化と自由貿易
3. 学会等名 台湾日本研究院2023年会及び「インド太平洋地域における「日台経済安全保障体制」国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuto Suzuki
2. 発表標題 US-China competition The Demise of the Global Market Economy and the Rise of a Two-sphere World
3. 学会等名 King's College London Workshop（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuto Suzuki
2. 発表標題 U.S.-Japan Relations: Strengthening Supply Chain Resilience
3. 学会等名 World Learning Webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuto Suzuki
2. 発表標題 The Future Agenda for Economic Security
3. 学会等名 The Royal Institute of International Affairs (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuto Suzuki
2. 発表標題 What Do China 's Neighbors Think of De-risking?
3. 学会等名 THE DIPLOMAT WEBINAR (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuto Suzuki
2. 発表標題 Semiconductor Supply Chain Restructuring and Economic Security
3. 学会等名 SEMICONDUCTOR AND ECONOMIC SECURITY: JAPAN AND TAIWAN, International Forum (DSET (Research Institute for Democracy, Society, and Emerging Technology) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 「1970年代の西ドイツにおける保守主義の変容」
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原良子
2. 発表標題 「ベリフェリーからの問い：フランスにおける地域主義の覚醒とバスク」
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 妹尾哲志
2. 発表標題 「戦後ドイツ外交における対口依存の歴史的起源？－「接近による変化」構想の内容とその登場背景」
3. 学会等名 沖縄経済環境研究所2022年度第1回オンライン研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 Whither National Security?: Comparing the strategies in the era of geopolitical confrontations
3. 学会等名 Global Governance Programme, Robert Schumann Centre for Advanced Studies, European University Institute
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 Japan Turns: East Asian Strategic Posture in a Post-Ukraine-War Era
3. 学会等名 L'Ecole normale superieure, Paris
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 コロナ時代の国際政治~グローバル化の大分岐なのか~
3. 学会等名 富士通フューチャースタディーズ研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 コロナ時代の国際政治~グローバル化の大分岐なのか~
3. 学会等名 第324回国際政経懇話会、公益財団法人日本国際フォーラム/グローバル・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 ポピュリズムは民主主義を破壊するのか-EU の現在とこれから
3. 学会等名 肥後銀行（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 コロナ危機後の欧州と世界
3. 学会等名 アジア調査会講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤乾
2. 発表標題 ポスト・コロナの世界~日台協力の可能性~
3. 学会等名 國立臺灣大學日本研究所(招待講演)(国際学会)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Endo
2. 発表標題 The Conditions for Regional Cooperation in Northeast Asia
3. 学会等名 2020 KND A Northeast Asia Peace and Cooperation Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 妹尾哲志、板橋拓己、飯田洋介、北村厚、河合信晴、葛谷彩
2. 発表標題 ドイツ外交史研究の最前線-『歴史のなかのドイツ外交』を手掛かりに
3. 学会等名 ドイツ現代史学会第42回大会、編著者リプライ・コメント:シンポジウムI
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上原良子
2. 発表標題 仏ダッソー社の独自路線-国家・安全保障・グローバルマーケット
3. 学会等名 日本国際政治学会2020年度研究大会、部会7「エアバス、欧州航空機産業と米国-経済ロジックと安全保障ロジックの融合と対立」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 細谷雄一、板橋拓己	4. 発行年 2024年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 民主主義は甦るのか？	

1. 著者名 細谷 雄一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 152
3. 書名 ウクライナ戦争とヨーロッパ	

1. 著者名 Yuichi Hosoya (ed.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 144
3. 書名 The Transformation of the Liberal International Order: Evolutions and Limitations	

1. 著者名 板橋拓己・妹尾哲志（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 394
3. 書名 『現代ドイツ政治外交史 占領期からメルケル政権まで』	

1. 著者名 日本平和学会編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 778
3. 書名 平和学事典	

1. 著者名 鈴木一人・西脇修編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 経済安全保障と技術優位	

1. 著者名 佐橋亮・鈴木一人編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 242
3. 書名 『バイデンのアメリカ：その世界観と外交』	

1. 著者名 板橋拓己	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 279
3. 書名 『分断の克服1989-1990 統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦』	

1. 著者名 細谷雄一（岩間陽子・君塚直隆と共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 『ハンドブック ヨーロッパ外交史 ウェストリアからブレグジットまで』	

1. 著者名 細谷雄一（川島真と共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 314
3. 書名 『サンフランシスコ講和と東アジア』	

1. 著者名 Yuichi Hosoya and Masayuki Yamauchi (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 211
3. 書名 Modern Japan 's Place in World History: From Meiji to Reiwa	

1. 著者名 森聡、福田円、妹尾哲志、溝口修平、小野沢透、中島琢磨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 入門講義 戦後国際政治史	

1. 著者名 妹尾哲志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 冷戦変容期の独米関係と西ドイツ外交	

1. 著者名 遠藤乾	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本国際問題研究所	5. 総ページ数 170
3. 書名 戦禍のヨーロッパ	

1. 著者名 藤井宏昭、細谷雄一、白鳥潤一郎、山本みずき	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 新しい地政学	

1. 著者名 池本大輔、板橋拓己、川嶋周一、佐藤俊輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 326
3. 書名 EU政治論 国境を越えた統治のゆくえ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

History of European Integration—ヨーロッパ統合史サポートサイト https://lex.juris.hokudai.ac.jp/history_of_european_integration/archives.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川嶋 周一 (Shuichi Kawashima) (00409492)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	妹尾 哲志 (Tetsushi Senoo) (50580776)	専修大学・法学部・教授 (32634)	
研究分担者	鈴木 一人 (Kazuto Suzuki) (60334025)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板橋 拓己 (Takumi Itabashi) (80507153)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授 (12601)	
研究分担者	上原 良子 (Yoshiko Uehara) (90310549)	フェリス女学院大学・国際交流学部・教授 (32711)	
研究分担者	細谷 雄一 (Yuichi Hosoya) (90322784)	慶應義塾大学・法学部（三田）・教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Whither National Security?: Comparing the strategies in the era of geopolitical confrontations	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------